

2017年4月13日

企業向けモバイルネットワークサービスにおいて IoT 対応機能を拡充 ～Software Defined 技術による効率的な管理、多彩な API による高い拡張性を実現～

NTT コミュニケーションズ株式会社(以下、NTT Com)は、2017年6月より、企業向けモバイルネットワークサービスにおいて、IoT で利用する通信を一元的・効率的に管理運用するための機能を拡充します。

NTT Com が有する Software Defined 技術(以下、SD 技術)によって、多数の機器による通信の一括管理や、柔軟な設定変更ができるポータルサイトを提供するほか、多彩な API の提供により様々な機能やアプリケーションとの連携を実現します。これにより、IoT を利用する企業のみならず、自ら IoT サービスを提供する事業者も、IoT に必須の要素であるモバイル通信をより効率的に、そして効果的に活用することが可能となります。

なおこれらの機能は、VPN によるセキュアな接続を行う「Arcstar Universal One モバイル」およびインターネットによる接続を行う「OCN モバイル ONE for Business」にてご利用いただけます。

1. 背景

IoT におけるモバイルネットワークの利用には、人による利用とは異なる特有のニーズが存在します。例えば、数多くの機器やセンサーの管理を行う必要があったり、通信状態の確認やコントロールを管理者が遠隔で行う必要があったりするため、一元的かつ効率的な管理を行うための稼働が課題になります。

また料金体系やセキュリティレベルについても、IoT ならではのニーズが存在することを踏まえ、IoT に最適な通信プラットフォームとしてご利用いただけるよう、今回の機能拡充を行います。

2. 特長

(1) 複数の機器があっても、一元的な管理や柔軟な設定変更が可能

使い勝手の良いインターフェイスのポータルサイトから、お客さま自身で SIM カードや端末^{*1}の発注、料金コースの変更、通信量の確認、通信セッションの切断などを行うことができます。その他にも、通信量が閾値を超えた場合のメール通知などの機能を備えており、通信の管理稼働を削減します。

また、これらの管理機能は API でも提供するため^{*2}、導入する企業のシステムと連携させることによる管理の自動化も可能です。

(2) IoT に適した無駄のない料金体系

IoT においては、人が利用する場合と異なり、回線が開通してもすぐには通信を利用しな

い場合が多くあります。通信機能を取り付けた機器を設置しても、その瞬間から機器稼働させるとは限りません。

今回の機能拡充により、お客さまは自らのタイミングで課金開始をコントロールできるようになるため、回線の利用開始までの期間は基本料のみが課金され、コストを抑えて利用することができます。

(3) 高度なセキュリティ対策とその管理が可能

機密性の高いデータのやり取りを行う場合には、セキュアな閉域網である VPN「Arcstar Universal One モバイル」を利用することもできます。さらに今回の機能拡充により、機器ごとにアクセスできる範囲を制限したり、機器間の通信の許可・拒否を設定したりといった、詳細なセキュリティポリシーを導入することが可能^{※3}となります。

3. 提供開始日

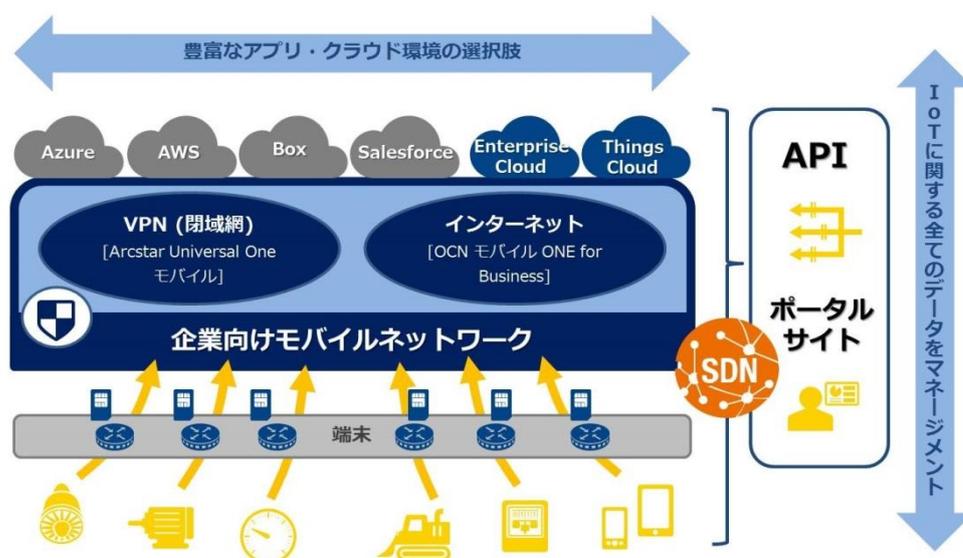
2017年6月予定

4. モバイルネットワークサービスと他サービスとの連携

NTT Com が提供する「Enterprise Cloud」や Microsoft「Azure」、Amazon Web Services「AWS」などの多様なクラウドサービスに接続できるため、お客さまのニーズに応じたサービスを組み合わせた柔軟な IoT 環境の構築が可能です。

あるいは、手軽な IoT 導入を実現する IoT Platform サービス「Things Cloud」と組み合わせることで、機器やセンサーのデータ収集から、その閲覧や簡易分析に至るまでの環境をワンストップで構築できます。

<モバイルプラットフォームを活用した IoT 構築イメージ>



- ※1: IoT ゲートウェイ(SIM カードスロット付きの IoT 向けルーター)等の通信機器
- ※2: 一部機能については API 提供対象外です。
- ※3: 「Arcstar Universal One モバイル」のみで提供する機能です。